



プログラミング教育の必修化とは？

2020年からプログラミング教育が小学校で必修化になったことに伴い、町では子ども達にプログラミングに興味や関心を持ってもらうため、8月8日・9日に計4回「親子deプログラミング体験教室」を開催しました。

2日間開催した体験教室では、子ども48名、大人29名が参加し、子ども達がニンゲンロボットを言葉で指示したり、実際にタブレットを使用して、プログラミングでクイズのプログラムを作成しました。

今回はプログラミング教育の必修化について、ご説明します。



【会場の様子】

1. そもそも「プログラミング」って何？

「プログラム」といえば、運動会等のプログラムが身近な言葉ではないでしょうか。運動会のプログラムで考えると、やる事が順番に並んでいます。

この「やることを順番に書き出したもの」がプログラムであり、本質的にはこの運動会等のプログラムとコンピュータのプログラムは同じです。

違いは「プログラムに従って動くのは誰か」であり、「どうやって指示するのか」の違いになります。

そして、「プログラミング」は、このプログラムを作る作業のことであり、コンピュータでいえば、プログラミング=コンピュータに命令することを指します。

2. プログラミング教育の必修化？

プログラミング教育の必修化は国語、算数等の科目とは違い、各科目のなかで、子ども達がコンピュータに触れながら、コンピュータに命令を出すときのように順序立てて物事を考え、実行に移す力を身につけるための、「プログラミング的思考」を育む内容が盛り込まれた授業になります。

3. 家庭では何を教えればいい？

私たちの身の回りには機械は、プログラムで動いています。例えば、家の中では電気ポットや炊飯器、家の外では信号機や自動販売機などは様々なプログラムで動いています。どんなプログラムがあり、どのような指示で動いているのか子ども達と一緒に考えてみてください。また、遊びながら学べるプログラミング教材もたくさんインターネットで公開されています。パソコンがなくてもスマホでできるアプリもありますのでご確認ください。

(アプリ例：スクラッチ、ビスケット)



～ プログラミング体験教室アンケート結果～
(子ども達の感想から一部抜粋)

- 勉強にもなったし、面白かった。もう一回来たかった。
- 今度はスクラッチ(プログラミング教材)で色々な発想をたくさん考えたいです。
- いろんなブロックを組み合わせて色々な動きが作れました。

山都町はSDGs「持続可能な開発目標」に取り組みます！

○健康ほけん課とSDGs

3歳児虫歯保有率 **11.5%** を維持します。(H26年度 25.0%)

・子育て世代が安心して子どもを産み、育て、健やかな成長を創造できるよう、地域で子育て世代を支援・応援できる環境を整備します。

妊婦健診、赤ちゃん訪問、4ヵ月～3歳児健診、2～4歳児歯科健診

・子どもを産み育てたいと願う夫婦の希望を叶えるため、平成28年度から特定不妊治療費の助成を開始し、その前段階の治療である一般不妊治療者にも令和2年度から費用助成を始めています。



住民一人ひとりができること・・・

★子どもたちの健やかな成長を願い、挨拶や声掛けを心がけ、常に見守りましょう。



総医療費に占める予防可能な疾患(*)の割合 **37%** を目指します。(現在 38.1%)

* 予防可能な疾患とは、慢性腎不全・脳血管疾患(脳梗塞、脳出血)・心疾患(心筋梗塞、狭心症)

特定健診受診率 **65%** を目指します。(現在 63.6%)

・区長や福祉委員、民生委員等の地域を支える役員と保健師や栄養士等が連携し、保健指導、健康教育、相談体制の充実を図り、生活習慣病予防・介護予防策を推進します。

・健診受診及び保健指導の徹底による、生活習慣病の重症化予防を推進します。

・住民の心の健康づくり(メンタルヘルスケア・精神保健)に対応し相談業務等を行います。



住民一人ひとりができること・・・

★1年に1回は健診等を受診し、病気の早期発見、重症化予防に努めましょう。

★自分や家族の体の状態を理解し、必要な生活習慣の改善に取り組みましょう。



問合せ先 健康ほけん課 ☎72-1295

※令和2年度から広報やまとへ関連するSDGsのアイコンを表示しています。SDGsの内容や各ゴールの説明について、町ホームページもご覧ください。

山都町×SDGs 検索

